



喫茶での出会いで、昔を思い出す

週に一度、ボランティア「ミント」が運営する「喫茶」を訪れて、患者さん同士が交流できる機会を作っています。

当院は、全室個室。良い点は多いのですが、普段お部屋で一人きりと言うことにもなります。一日中テレビを見たり、音楽を聴いて過ごす方、何もすることがないから昼寝をして時間をつぶす方、天井を見て過ごすだけの方、など様々です。

「お家だと思って、自由にしてください」と言われても、家のように、手を伸ばせば好きな本があり、庭を見ては「草取りをしようか?」と考えてみたり、住み慣れた家の臭いがある中で自分らしく居られる本当の「我が家」とは、残念ながら違うのです。

吉村 良子・文
函館おしま病院
ホスピス病棟看護師長



よしむらりょうこ
社会福祉法人函館厚生院函館
厚生院看護専門学校卒業。
平成16年函館おしま病院勤務。
平成22年12月より同病院ホス
ピス病棟看護師長に就任し、現
在に至る。

私たちがご案内する「喫茶」には、若いころ喫茶店でコーヒーを飲んだことを思い出し、懐かしく参加される方が少なくありません。しかし、患者さん同士が話をする機会は、この日だけのことが多いのです。

最近、出会った同い年生まれの男性3人に、看護師が混ざり、思い出話が噴火します。お部屋で見たことがない表情で会話が弾みます。

「今日は気乗りがしない」といえども、「先輩が来るならいくかな?」と体が動く。何だか、昔のように喫茶店に足が向く。そんな場所や時間を、たくさん作り出したいと思います。